

尾関さん 「農業の匠」に



水稻品種「みのこしき」を生み出し、地域の農業活性化に貢献したとして、尾関二郎さん(小瀬)が農林水産省の認定する「農業技術の匠」に選ばれました。昭和50年代、ハツシモと他の品種を人工交配し、この地

域で作りやすい新品種「みのこしき」を育成し、戦後初めて民間育成品種として昭和58年に種苗登録されました。その後、県の奨励品種に採用され、「みのこしき」は関市を始め、広い地域で栽培されています。

あんな事、こんな事

関市イメージキャラクター
「関*はもみん」



昔の遊びでふれあい交流

何でも知っているお年寄りからさまざまなことを教えていただく瀬尻小学校5年生児童が、広見などの地元高齢者の集い「いきいきサロン」に参加して、昔の遊びで交流しました。お手玉やおはじき、けん玉やあやとりなどの遊びをグループごとに体験。遊びの手ほどきを受けたり、勝敗を競ったりと予定の時間を超えるほど、夢中で一緒に楽しみました。

懐かしい味を今に伝えて

武儀地域に保存食として伝わる「玉みそ」の仕込み作業が、下之保の丹羽益子さん宅で最盛期を迎えました。干し場の倉庫には、ドーナツ状の玉みそ約3,000個がつり下げられ、乾燥させてうま味を熟成します。かつては地域のあちこちで作られ、おかずや調味料、山仕事の弁当などに使われていました。「懐かしみながら食べてもらえると嬉しい」と話す丹羽さん。昔から伝わるみその味は、人情の味です。





麻薬は だめワン！

安桜小学校で、薬物乱用防止の正しい知識を身につけようとセミナーが開かれました。薬物乱用は人間の身体や人生を破滅させ、その恐ろしさは想像を超えます。参加した児童や保護者は薬物乱用が社会に与える悪影響などを学び、絶対に近づかないことを誓いました。続いて麻薬探知犬が登場し、麻薬のにおいが付いた布を箱から探し出す様子を実演。たちまち正確に探知し、見学者を感心させました。

森の積み木で環境学習

財団法人オイスカ岐阜県支部が積み木 1 万個を持って小金田保育園を訪れました。間伐材で作られた積み木にふれることで、子どものうちから自然や環境を大切にする意識を持ってほしいとの思いで実施。仰向けになった園児に、積み木をシャワーのようにかけて木の感触や香りを楽しんだ後、高く積み上げたり平面に並べたりしながら、創造力豊かに遊び、山を大切にする気持ちを学びました。



わがまちの科学者

「科学の甲子園」とも呼ばれ、国内で最も伝統のある日本学生科学賞コンテストで、武芸川中学校3年の石塚玲衣君が入選2等を受賞しました。研究は、水生生物の成虫を使って「陸上」で水質判定をしたもので、日没後に自動販売機の明かりに集まるカゲロウの数でその付近の川の水質階級を見分けられることをまとめました。「すばらしい発見ができたことを嬉しく誇りに思います」と笑顔で話してくれました。

自助・共助を大切に

「自分のまちは自分たちで守りたい」と、前山町自主防災会主催の防災訓練があり、住民約220人が参加しました。大規模災害時にみんなが地域ぐるみで助け合い協力し合って、統制の取れた行動をすることにより、一人一人の力がいきます。ここに「自主防災会」の重要性があり、いち早く理解されています。前山町では今年も、避難訓練による安否確認とアルファ米と豚汁の炊き出し訓練を行いました。



こぼれ話



先日たまたま見たテレビ番組で、静岡県沼津市の災害支援ボランティアが、東海地震を想定し、1月9日から10日にかけて行った避難訓練の様子が放映されていました。訓練では、公園のブランコの支柱や園芸用の支柱とブルーシートを使ってテントを張り、その中で実際に一晩過ごしていました。

「被災初日から3日間——阪神・淡路大震災の経験から、国や県の支援が届かないこの期間は自分で寝る場所と食べ物を確保する必要があるとの考えに基づき、自分の身は自分で守る“自助の力”を高める訓練でした。

1月23日に行われた前山町の避難(炊き出し)訓練で、講師として来ていた市危機管理課職員も、災害が起きた時は、自宅の救急箱やバーベキューコンロなど使えるものを持ち寄って地域住民が協力し合う“共助”、そして何より避難所まで家族全員が無事に避難できるように日ごろから各家庭で災害に備える“自助”が大切だと話していました。

また、寝ているときに家具が倒れてきたら大げがをして避難できなくなるので、まずは「寝床を確認しろ」とのこと。皆さんも今一度家の中を確認するなど、家族みんなが無事に避難できるように備えておきましょう。